

# SCSK OSS 導入事例

## 「MySQL」活用によるスクラッチ開発 社員1万人規模に対応する 社内基幹システム

### OSS活用ポイント

- ・社員1万人規模の基幹システムをOSSで構築
- ・豊富な取り扱い実績、深い技術力の蓄積がある「MySQL」を採用
- ・OSS活用によりコスト削減と安定稼働を実現

### プロジェクトの背景

## 高い技術力のアピールとコストダウンに向けて

オープンソースソフトウェア（OSS）を使って大規模基幹システムを構築する――。2011年、CSKとの合併を控えた住商情報システムは、前例のなかったこの取り組みに挑むことになる。住商情報システムは、2005年に住商エレクトロニクスと合併、長きにわたり3つの基幹システムを運用していた。業態の異なる企業同士の合併であったため、それぞれのシステムも大きく違う。それらを1つに統合するにあたり2010年、OSSで全面リプレイスするという命題が与えられたのである。

ソリューション事業部門の井上真之はプロジェクトの背景を次のように語る。「目的は2つありました。SCSK（住商情報システム）の高い技術力を社内外にアピールすること。そしてコストを抑えて大規模基幹システムを構築することです」。こうしてプロジェクトはスタートしたのだ。

### 構築フェーズ

## 品質を確保するための3つの施策

本プロジェクトではリスクを減らすため、検証に重きを置いた。アプリケーション開発を担当した岡村崇志は、「設計の前段階では、『MySQL』などのOSSについて、必要な性能が確保できるか、安定した運用ができるか、バージョンの整合性はとれるかなどを検証しました」と話す。「プロダクト選定ワーキンググループで、過去のシステムの実績や基礎検証データを基にOSSの機能、コスト、要求充足度を評価しました」と、インフラ構築を担当した池田徹郎も続ける。SCSKは他社に先駆けて2003年より日本国内での「MySQL」の取り扱いを開始、2005年には米国シアトルの「MySQL」開発拠点に赴き、池田が中心となって「MySQL」本体の日本語処理機能を大幅に改善した実績を持っており、技術の蓄積は申し分ない。2005年から「MySQL」を社内システムに導入するなど取り扱い実績も豊富だ。しかし、開発人員規模が大きく、多くの機能が存在する本プロジェクトでは今まで以上に品質の確保が大きな課題だった。

そこで講じたのが次の3つの施策だ。まず、OSSの組み合わせによる基幹システムの品質への影響などを事前に調査するフィージビリティスタディを実施。次にデータベースソフトに「MySQL」を採用するにあたり、検証用の評価ツールを自社開発し問題の早期発見、早期解決に挑んだ。最後に、ソースコードが公開されているメリットを生かし、テストフェーズでカスタマイズし検証フェーズに余裕を持たせた。

商用製品は、大きなプロジェクトで派生する問題解決のため、さまざまな有償オプションを用意している。「OSSの場合、製品自体に存在しない機能でも、OSSユーザーによるサードパーティ製ツールが豊富に存在する。そういったものの活用を視野にいと、商用製品でしか実現できなかったこともOSSで実現できるようになる」（池田）

現に監査用のログ取得が必要となった今回のプロジェクトでは、「MySQL」の機能にないため、プラグインを作成して対応。「情報を見つけて、要件のアウトプットに見合う形でのプラグインを開発し、Slerのサイドで製品に手を入れることが自在にできるということもOSSのメリットだと思う」（岡村）

### 企画スタッフ



SCSK 株式会社  
ソリューション事業部門  
コーポレートシステム本部  
コーポレートシステム部  
業務システム第一課 課長  
**井上 真之**



SCSK 株式会社  
ソリューション事業部門  
コーポレートシステム本部  
コーポレートシステム部  
業務システム第一課  
**岡村 崇志**



SCSK 株式会社  
ITマネジメント事業部門  
基盤インテグレーション事業本部  
基盤インテグレーション部  
システム基盤技術第三課  
チーフエンジニア  
**池田 徹郎**



SCSK 株式会社  
ソリューション事業部門  
コーポレートシステム本部  
コーポレートシステム部 部長  
**青梅 伸一**



SCSK 株式会社  
ソリューション事業部門  
コーポレートシステム本部 本部長  
**水野 隆**

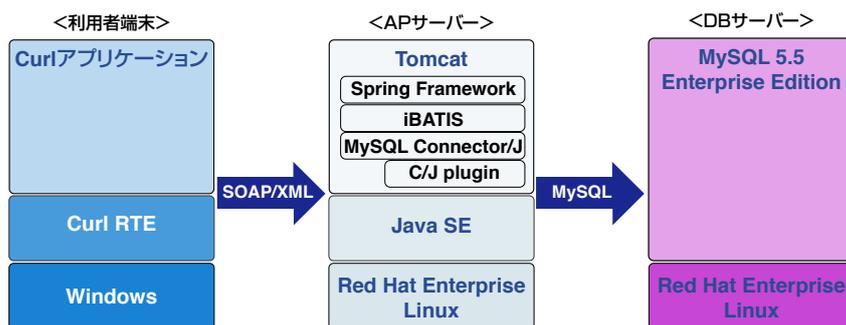
## 運用フェーズ

## 1万人規模のユーザーを持つシステムへ

こうして2012年7月、基幹システム「SUCCESS」が誕生し、スタートした。2013年4月にはCSKのシステムを統合し、いまや1万人規模のユーザーを持つシステムとなっているが、リリース後、特に大きな障害もなく順調に稼働している。ユーザー数や業務量が大幅に増加したにもかかわらず、問題もなく稼働し続けているのは、ユーザーの増加を見越し、性能を意識してシステムを作り上げてきた成果と言えるだろう。

また、SCSKのOSSの知見を集結した「OSS戦略企画室」と、「Linux Kernel」を中心としたソースコードレベルでの性能解析や障害解析などの高度な技術支援を提供する「VA Linux Systems Japan」、この2つの組織の技術力とノウハウがあるからこそ、安定した運用を続けることができるのだという。「常に情報共有や技術支援を受けられるという安心感がある。運用フェーズに入って、なにか問題があったときでも相談できる、頼れるところがあるというのはありがたいですね」（岡村）

## ■ 営業システムの主なソフトウェア構成



## ＜営業システム画面イメージ＞



## ■ 導入の効果

ソリューション事業部門・コーポレートシステム部の部長の青梅伸一は、基幹システム「SUCCESS」について、「OSSの独自の障害は見当たりません。商用製品を使ったシステムと比べても引けをとらない」と胸を張る。OSS導入効果は大きく3つあるという。

まず1つ目はコスト削減だ。商用のソフトウェアの場合、ライセンスを購入する必要があるが、OSSならばライセンスは無料で使えるため、コストを気にすることなく本番環境のほかに開発環境を作ることができる。2つ目はベンダーにロックインされないこと。ベンダーの戦略に縛られることなく、自分たちの思う通りに計画を立てられるというメリットがある。3つ目は必要に応じて自社で機能追加することができること。その分ソフトウェアのソースコードを理解し、変更するだけの技術力が必要となるが、SCSKでは「MySQL」に精通した技術者がいるため、このOSSの利点を十分に活用することができる。



## 今後の展開

## ビジネスを支える基幹システムでのOSS利用を促進

企業システムにおけるOSS活用は広まってきており、今後の期待も大きい。例えば、本事例の中核となったOSSである「MySQL」は、バージョンアップによって、パフォーマンスやレプリケーション機能が商用製品と比べても遜色ないレベルになってきている。

住商情報システムとCSKが合併したときのように、一気にトランザクションが2倍になるというようなケースは昨今珍しくない。ソリューション事業部門の水野 隆は、「大きな経営戦略の方向転換や拡張の中で、新しい事業戦略でサービスを提供し続けるということは、ビジネスを支えている基幹システムも拡張や改変を求められるということ。SCSKはそういった場合に対応できる技術力を持ったSlerであり、同じようなことで悩んでいるお客さまにOSSを活用したソリューションを提案していきたい」と意気込みを語った。

SCSKのOSSを活用した大規模基幹システムを構築する挑戦は成功した。だが、ここが終着点ではない。SCSKはより高いところを目指し、これからも新たなチャレンジを続けていく。

## ＜製品・サービスに関するお問い合わせ＞

SCSK 株式会社 基盤インテグレーション事業本部  
 基盤インテグレーション部  
 tel : 03-5166-1910  
 e-mail : oss\_sales@scsk.jp

**SCSK** SCSK株式会社

SCSK 株式会社  
 〒135-8110 東京都江東区豊洲 3-2-20 (豊洲フロント)  
 TEL: 03-5166-2500